

UICC 世界対がんデー 公開シンポジウム 2012

「がんの痛みからの解放」

— 先進国の水準を目指して —

がん患者さんにとって痛みからの解放は人間性を取り戻し、豊かな時間を過ごしていく上で欠かせないことです。そのために欠かせない麻薬ですが、我が国の消費量は先進国と比べて遙かに少ない量にとどまっています。また世界の発展途上国には麻薬と無縁で苦しむ500万人のがん患者がいます。がんは誰でもなる病気です。このシンポジウムを機会にみんなでよりよい環境をどうやって作っていきけるかを考えてみませんか。

日時

2012年2月4日(土) 14:00-17:00

会場

大阪国際会議場 12階 特別会議場
(大阪市北区中之島 5-3-51)

参加
無料

■ 開会の言葉：北川 知行 (UICC日本委員会 代表)

■ 司 会：恒藤 暁 (日本緩和医療学会理事長)、笹子 三津留 (第50回日本癌治療学会学術集会会長)

基調講演

がん患者における痛みの影響と疼痛管理の原則

演者：吉沢 明孝 (要町病院副院長)

パネリスト講演

1) 麻薬使用のこつと落とし穴

演者：池永 雅之 (淀川キリスト教病院ホスピス長)

2) 痛みをもつ患者をどう支援するか

演者：小山 富美子 (近畿大学医学部附属病院 がんセンター)

3) がん患者の疼痛管理(在宅を含めて)における薬剤師の役割

演者：岡本 禎晃 (市立芦屋病院 薬剤科長)

4) 家族からみた疼痛コントロールの重要性

演者：薦田 徹 (がん患者遺族)

5) がん対策推進基本計画見直しにおける緩和ケアに関する議論

演者：鷲見 学 (厚生労働省がん対策推進室室長)

パネルディスカッション

関西に、日本に、そして発展途上国に、世界水準のがん疼痛管理を

■ 閉会の言葉：垣添 忠生 (日本対がん協会会長)

主催

UICC日本委員会、日本対がん協会、日本癌治療学会

後援

厚生労働省、読売新聞大阪本社、毎日新聞大阪本社、朝日新聞社、兵庫県医師会、大阪府医師会、神戸新聞社、産経新聞社、日本緩和医療学会、日本癌学会、毎日放送、独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター

■ 申し込み方法

「第50回日本癌治療学会学術集会 サテライトシンポジウム事務局」宛に、以下のいずれかの方法でお申込みください。(締切:2012年1月20日の消印まで有効)いずれの場合も、氏名、住所、電話番号、参加希望人数をご記入ください。

① メール 50jsco-sympo@congre.co.jp

② FAX 06-6229-2556

③ 往復ハガキ 第50回日本癌治療学会学術集会 サテライトシンポジウム事務局
〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-13 株式会社コングレ内
TEL:06-6229-2555

※返信ハガキの宛先には、ご自身のご住所・お名前をご記入ください。

■ 定員・締め切り

定員350名に達するまで先着順で申し込みを受け付けます。受け付け後、入場券をお送りしますので、当日は入場券を持参してください。なお、駐車場には限りがございますので、公共の交通機関でお越しください。

■ アクセス



- 京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)
- 大阪市営地下鉄「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)
上記の各駅からそれぞれ徒歩約10分
- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪市営バス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四行)で約15分「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口(高架下)の間で運行しており、ご利用いただけます